

平成28年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙のほかに、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

非公開

非公開

(中村秀明, 『水説』, 毎日新聞東京朝刊, 2015年05月27日)

- 問1 日本以外にも世界には捕鯨やイルカ漁が行われている国や地域があり, それらには共通する地理的条件, 歴史, 経済, 文化等があるにもかかわらず, イルカ愛護を訴えて作られた「ザ・コーブ」という米映画も和歌山県太地町のイルカ漁のみが対象となっている。このような批判の多くは日本に集中する傾向にあります。それはどうしてだと考えられるか。400字以上, 600字以内で述べなさい。
- 問2 イルカ漁を和歌山県では, 地域文化の伝承と科学的な根拠に基づく資源の管理と利用の考えから, 紀南地方の重要な漁業の一つとして位置づけています(和歌山県ホームページ)。しかし, 私たち日本人全体を考えると, イルカや鯨を食べている人はほとんどいないと思われます。また, 人間が管理している家畜を屠畜する場合と異なり, 野生動物であるイルカや鯨については, 苦痛を与え食料にすることや見世物にすることに対する批判も存在します。そういった批判と食文化の両立はどのように行っていくべきであると考えるか。400字以上, 600字以内で述べなさい。

平成28年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

出題の意図

亜熱帯生物資源科学科では、沖縄が長寿県であった時、県民の健康・長寿に貢献してきた伝統的な食文化から学び、その食材に含まれる生理活性物質を見出したり、新しい機能性食品を開発することをアドミッションポリシーの一つにしている。最近、ある地域において伝統的に守られ、かつては沖縄も依存していた食文化が、外国から一方的な批判や攻撃を受ける事象が起きている。食文化も変化していくと思われるが、その健康・長寿に与える影響の大きさから食文化に対する考えを問うことを中心にしている。